

〈仙台支部〉  
仙台支部の近況

大学の状況調査

発足当初は旧法人から引き継いだ事業については、その実施方法等はわかっているので対応はできますが、その他の事業についてはほとんどが初めてのものばかりのため、大学の実情把握をする必要から、「東北地区大学の学生支援」状況調査を行うことになり、東北地区大学の約八〇大学・短期大学に二回のアンケート調査を実施しました。一回目の調査でわかったことは、学生相談について、ほとんどの大学で学生相談の体制がとられていること、場合によっては専門のカウンセラーよりも保健室の相談件数が多いなど注目する事例もあり、全体として大学の学生相談は行われていると思われまます。

次に就職に関して、学生の就職意識を高めるためガイダンス等で先輩が就職の経験談を話すなど工夫した就職支援

昨年八月二〇日に岩沼市とグリーンピア岩沼の健康増進事業で連携協力のための覚書結びました。

また八月二六日には柴田町と住民の健康づくり事業で連携協力のための覚書結びました。仙台市教育委員会や柴田町教育委員会とは一昨年に学校教育の分野でも連携協力の覚書を結んでいます。その他、仙台大学は亘理町や白石市にも協力しています。

仙台大学は、健康福祉学科や運動栄養学科を持つ東北・北海道で唯一の体育系大学という特色を生かし、教員や学生が事業に協力しています。「地域・社会に貢献する、開かれた大学」を目標に、自治体と協力して健康福祉分野にも力を入れているそうです。

留学生地域交流事業について

仙台支部では日本学生支援機構の事業の一つである留学生地域交流事業を、自治体・関係団体等と提携して実施しています。

いま実施している交流事業のテーマは「地域の個性化とまちづくり―異文化を通じた個性再発見と発信」です。

この留学生交流事業は、留学生の母国紹介をベースにした交流会ではなく留学生を地域の一員、住民と協働のパー

を行い、卒業生の就職率が九〇％〜一〇〇％となっている大学もあり、大学の取組によっては大きな効果をあげているケースがあります。

インターンシップについては、今後積極的に進めたいと考える大学がある一方、資格取得のため時間的に厳しく、実施していない大学もあり、全般的にはインターンシップは制度としてまだ確立していないと言えます。

以上が大まかな学生生活支援状況ですが、二回目のアンケート調査がまとまればその内容をホームページに掲載する予定です。

仙台大学と地域の連携について

仙台大学は地域と健康増進事業で連携を図っています。

トナーと位置付けた地域まちづくりで、今回が初めてのため、最初は仙台市内の名所、古い町訪問その他情報収集を行いました。

その後、自治体・関係団体の協力を得て実行委員会を設置しました。

このまちづくりの活動には、国際交流会館館生を中心に留学生も多数参加し、いくつかのグループに分かれて自転車で仙台市内を日本人学生と散策しました。「とっておきの場所」を探しながら歓談を楽しむ一日を過ごしました。

一・二月中は仙台市の「まち」宝探しを実施するとともに、支部事務所近くのお寺で座禅体験、一月二四日には、近くの神社の「どんと祭、裸参り」に参加、一月末には日本三景、松島に活動場所を移動して地元の小・中・高生といっしょに「まち」宝探しを実施する予定です。

